

都農町地域資源マップ4班

林瑞樹 関根海冬 山重悠璃南 中原櫻子 上野保乃香

1



畑の中に残るため池。付近にある川と比べかなり濁っており、水質は悪い。ゴミが捨てられ、藻や水草も繁茂しており、手入れがされていない。大規模であるため自然にできたものではなく、昔農業用水として利用されていたと考えられる。現在使用されていないのであれば撤去が望ましいが、費用対効果等を考えると難しそうである。（関根）



過疎化や高齢化に伴う土地の管理不全や廃車の適正処理が進まない地方の課題を反映している。景観の悪化だけでなく、防犯・防災上のリスクや土地の有効活用を妨げる要因として、地域資源の難しさを示している。（林）

2

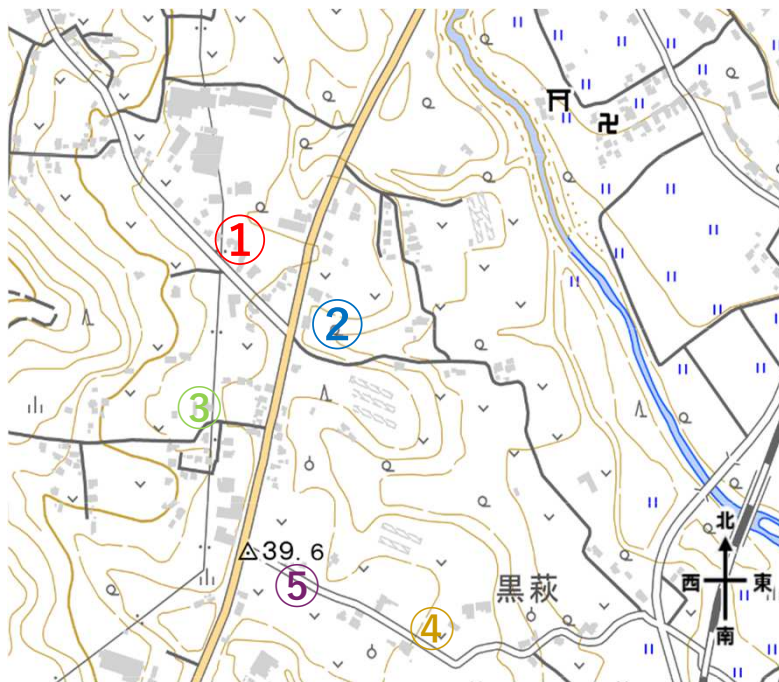


東都農町にある数少ないスーパーの一つ。肉、魚、日用品や雑貨の類も多くそろえてあり、スーパーというよりはディスカウントストアに近い。野菜は品質が高く、一般的なスーパーに比べ安く、たまねぎが150円で売られていた。野菜の多くは都農町の近くにある高鍋市場という場所で競られたものを仕入れており、地産地消が行われているため安く済んでいる。（関根）

3



利用されておらず、雑草が生えっぱなしの土地があった。農地として利用するには雑草の除去や維持管理に手間や費用がかかるため、十分な管理ができず作物を栽培できない。（山重）



4



津波避難場所↓
・九州ファーム…地盤の高さ 海拔 約35m
・つのレストラン…地盤の高さ 海拔 約37m
上記の二つが津波避難場所に指定されていた。看板が大きく掲示されており、町民の方々の目に留まりやすいと感じた。（中原）

5



農業の担い手不足や高齢化、資材・燃料高騰による経営圧迫など、地方農業が直面する課題を反映している。ビニールがはがれ形骸化したハウスや放置された暖房設備は、耕作放棄地の拡大と営農継続の難しさを示す。（林）



この畑ではニラを栽培している。もとは雑草が多く生い茂る荒地だったが、整備を行い、現在は農地として活用されている。畑にはビニールシートが敷かれており、風で飛ばされないよう鉄の棒を重しとして設置している。収穫されたニラには黄色く変色した部分が含まれていることがあるが、出荷できるのは品質の良い青い部分のみであるため、一つ一つ手作業で選別を行っている。この作業には多くの時間と労力が必要であり、生産者にとって大きな負担となっている。また、栽培から出荷までの工程には多くの作業があり、すべてを農家だけで行うことは難しいため一部の作業は業者へ依頼している。このように、ニラの生産には畑の整備や管理だけでなく、品質を保つための細かな作業が数多く行われていることが分かった。（上野）



畑の近くには枇杷（びわ）の木があり、実がなっていた。枇杷は温暖な気候を好む果樹で、宮崎県のような比較的暖かい地域では育てやすいとされている。そのため、昔から家庭の庭木として親しまれてきた。また、かつては枇杷だけでなく、柿やみかんを庭に植える家庭も多かった。これらの果樹は育てやすいため、庭木として人気があった。現在では庭に果樹を植える家庭は減っているが、地域によっては今でも昔ながらの風景として見ることが出来る。（上野）

感想・コメント

調査日時は土曜日で休日だったのにも関わらず、全体的に人通りが少なく、なかでも若者の姿は見る事ができなかった。空き家が多く、看板などに草木が生い茂っておりあまり手入れされていない様子だった。見渡す限り田んぼや畑、ビニールハウスなどが広がっており、人気の少ない場所が多かったが、道路沿いに出ると住宅街がちらほら見られ、車通りも多い印象だった。